

「カーボンプライシングの活用に関する小委員会第4回」に係る意見

1. 資料「日本経済の状況、課題とカーボンプライシングの関係性について」

日本経済の現状、課題については、網羅的にピックアップされていると言える。

カーボンプライシングの作用について、短期的に起こる作用ではないものの、我が国の産業構造の転換・移行を促すことができるかどうか肝要である。コーポレートガバナンスの強化への取組等がなされてきたにも関わらず、産業構造の転換、とりわけ不採算事業からの撤退については、我が国ではあまり行われてこなかった。

世界のビジネスモデルは、IoT、AIを始めとするデジタル産業化へ、そして、単にモノを売るだけの時代から付加価値がより高いサービスをモノに付随させて利益を獲得していく時代へとといったように変化している。こうした世界的なビジネスの変化に対応し、我が国が経済成長していくという観点から、事業構造転換、ITへの設備投資、人的資本投資は、経済成長の核となるものである。こうした経済成長に向けて、人口減少などの制約条件もある中、限りある資源の戦略的な移動を促す必要がある。

カーボンプライシングによる価格シグナルと産業構造の転換、あるいは高付加価値経済への移行は、一見すると直接結びつくものではない。しかしながら、我が国では炭素排出の多い企業は、同時に利益率が低い、あるいは非価格競争力が不足し価格競争に巻き込まれている（よって炭素生産性が低い）ケースが多い。このことを踏まえれば、カーボンプライシングによってより低炭素な方向に産業がシフトしていくことと、利益率や非価格競争力の高い産業構造へと転換していくことは同義になり得る。私個人としては、カーボンプライシングは炭素排出が多く不採算な事業から、より付加価値・利益率の高いビジネスの領域へと事業を転換していく強い後押しになると考える。我が国の経済全体の成長は、事業構造の転換なくしてなし得ない。経済全体にとってプラスになるかという視点を持って議論をすることが大切である。